慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.1 (1964. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1964年 1月号

昭和392625年10月1324日
昭和年2月1日
昭和年1月1日
第三種郵便物認可
国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
発行（毎月1日発行）

論　説

二部門モデルにおける分配率の決定……富田重夫 1
二部門経済モデルにおける均衡成長について……川又邦雄 21
——展望と一つの積極的分析——
ヒルファディングの株式会社論にかんする一考察…飯田裕康 43
——とくに信用論との関連において——

資　料

1864年から1866年に至る第一インターナショナルの
総務委員会にかんする史料（その二）……飯田鼎 72

書　評

C. N. ワード-パーキンス著
『一八四七年の商業恐慌』……寺尾誠 85

新刊紹介

57巻 1 号

二部門モデルにおける分配率の決定

富田重夫

Ⅰ はしがき

D・リカードや、K・マルクスの古典的分析をはじめとして、国民分配分がその生産に参加した諸要素間にどのような法則にしたがって分配され、また経済の成長にともなって各種要素の相対的分前がどのように変化するかということが経済学上の一つの重要な問題を構成してきた。新古典派によるいわゆる「限界原理」に立脚した分析や、N・カルドアによるケインズ的貯蓄・投資の均等関係に基礎をおく分配理論もこのような問題への接近であった。古典派による資本主義経済における相対的分前に関する将来的展望が労働者階級にとってきわめて憂うつな、ないし悲劇的なものであったことは周知の通りである。しかるに比較的近時の実証的研究はこの相対的分前が過去において比較的安定していたことを示した。一世紀あるいはそれ以上の長い期間においては、殆どすべての経済諸量が大なり小なりの変動や成長をしているにもかかわらず、相対的分前が恒常的であったとしたら、それはたしかに人々の関心を惹く事実であるといえよう。これを単に偶然の出来事とみず、その理論的解明を与えんとするのは当然の事柄である。もっともこの歴史的恒常性の真実さについてはなお多くの綿密

新刊紹介

中木康夫著『フランス絶対王制の構造』……渡辺國廣 100
古島敏雄著『資本制生産の発展と地主制』……高山隆三 100
（古島敏雄監修・近代土地制度史研究叢書・第一巻）
見田石介著『資本論の方法』……金原実 102